



放射線被ばくについての公開討論会 「安全に暮らすためのエビデンスと対策」

平成 23 年 6 月 22 日（水曜日） 15 時－18 時

国立がん研究センター中央病院 管理棟 1 階 特別会議室

新聞やテレビなど様々なメディアにおいて、現在の放射線の影響に関して、「安全という立場」と「危険という立場」で、異なる立場で意見が述べられており、多くの者がどの意見を信じればよいのかわからず、不安をより一層強める原因の一つとなっています。放射線の影響について正しく理解し、また今後も蓄積される放射線の影響を最小限にするために、これまでに医学的に明らかにされてきた放射線の影響について、エビデンスに基づいた医学的公開討論会の実施する準備を進めます。20 年後、30 年後のことを予想し、放射線の影響を少なくし住民の方々の健康を守るための提言をまとめます。

1. 公開討論会の目的について

嘉山孝正（国立がん研究センター理事長）

2. 発がんのメカニズム

中釜斉（国立がん研究センター研究所長）

3. がんの原因とリスクの大きさ

津金昌一郎（国立がん研究センターがん予防・検診研究センター 予防研究部長）

4. 被曝の危険性について

西尾正道（国立病院機構北海道がんセンター病院長）

5. 放射線被曝の健康影響と被ばく量の推定

吉村健清（福岡女子大学 食・健康学科・元日本疫学会理事長）

6. 被曝リスクとその防護基準

甲斐倫明（大分県立看護科学大学・ICRP 国際放射線防護委員会委員）

7. 緊急被ばく医療について

富永隆子（放射線医学総合研究所 緊急被ばく医療研究センター）

8. 放射線被ばくの公開データの検証

伊丹純（国立がん研究センター中央病院 放射線治療科長）

9. 住民の声

愛澤卓見さん（福島県飯舘村「負けねど飯舘！！」）他

10. 総合討論と政策提言

嘉山孝正（国立がん研究センター理事長）

●主催 国立がん研究センター ●共催 全国がん（成人病）センター協議会 ●後援 読売新聞、東京新聞

*プログラム内容や演者につきましては、当日変更になる場合がございますので予めご了承ください。